

インドネシア管見記(2)

富山県農村医学研究会 長谷田 祐作

スラウェジ島での印象

昭和63年7月27日朝、私達豊田パーティの一行は予定通り無事にウジェン・パンダン空港に到着した。税関を出て朝の陽光の中、ハサヌディン大学医学部より2組の先生方御夫妻がお伴同伴で出迎えに来て居られたのは、恐縮の限りであった。しかも歓迎の花飾り持参である。早速パチリと撮った記念写真が図1でほぼ中央やや手前に見えるのが豊田会長である。



図1 ウジェンパンダン(Ujung Pandang)空港にて



図2 インドネシア周辺と旅行経路

ウジュン・パンダンと言うとそんな処があったかな？と首をかしげる人もあるかと思う。またスラウェジ島という名についても同様である。私達パーティの一行は予め旧セレベス島ということを知っていたのであるが、ウジュン・パンダンという名前はやはり耳新しいものであった。然しマカッサルと言えはセレベスという名と共に「ああ、あれか」と背く人は多いと思う。パンダンというヤシの木の一種がこの地方に多いということで昭和46年（1971年）に市名が改められたとのこと、ウジュンは岬を意味する。

図2に示されるように旧マカッサル、改名してウジュン・パンダンは旧セレベス島、改名してスラウェジ島（形の上から似ているということで spider、蜘蛛状とよく表現される）最大の都市であり南スラウェジ州の州都でもある。東部インドネシアでは海上交通の要所であり、多数の船舶が出入して昔からの面影を偲ばせており、古くから香料の集積港としても知られているところである。人口は78万（昭和61年現在）とか。

私達は大学からの先生方の御案内に従い、先ず富山村へ車を走らせたが、同所については豊田会長からの詳報が既に紹介されて居る（単行本：有情・余情—アジアの国々、及び本誌第19巻報告：南スラウェジ再訪記）ので出来得る限り重複を避けることにしたいが、最近新設された施設に是非招待したいということであった。名付けて「友好の館」とか。私達は本年（昭和63年—1988年）の訪問客第1号として案内されたわけ。図3は「友好の館」の一角を示して居るが広大な敷地なども推察して頂けると思う。

豊田パーティー一行の面々は新装早々の「友好の館」の一室で医学部の先生方の準備された朝食の御馳走に与かりながら改めて自己紹介、これまでの経緯の概要、明日の学術交流会打合せなどを済ませ敷地内を見学した。図4～6はその折りのスナップである。時刻は



図3 富山村の「友好の館」



図4 灌木の蔭にて（於：富山村）

（右端から、ハイルデン氏；ハサヌディン大学整形外科部長、越山・長谷田夫人、村田氏息女、ハイルデン夫人



図5 バナナの木蔭にて（於：富山村）

（右端から、越山、長谷田夫人、村田息女、ハイルデン、越山）

やがて午前11時。私達は富山村に別れを告げ近くハサヌディン大学の先生方の公舎地帯を横目で眺めながら市街地へ向かい昼食となった。

案内の先生の御説明では、日本からの旅行者がよく利用する中華料理店があるとかで昼食はそこと決まった。（図7）



図6 富山村の敷地の一部、木蔭にて



図7 中華料理店にて

昼食時、同店にて日本からの日本語の教授に來ているという先生に會った。概要は大体3~6カ月講義し、一旦日本へ帰り再度イ国して講義を続けるということ、この先生は川崎市から技術協力として参加しているとのこと。

私達は昼食後、予定された宿泊場所へ赴き、チェック・インの手続きを済ませた後、自由行動となったが、蝶の谷へ行く人、中国系陶芸店を訪れる人、附近の散策(旧城趾など見学)に行く人などに分散した。

宿舎の Makassar Golden Hotel では迷子防止のためとかで図8のような Pass port (?) を各人あてに用意して呉れたが大いに役立った人も居たとか。

なお此のホテルの位置する海岸はロサリービーチと呼ばれるが日没の光景が何とも言えない美観で世界の三大日没光景の一つとして知られているのだとのこと。(図9)

翌28日午前ハサヌディン大学の一室にて

**Restaurant and Lounge
Saari Restaurant**
The LOBBY offers fine French cuisine in romantic and sophisticated atmosphere. Open daily for Lunch and Dinner.

Anging & Minami Terrace
MAKASSAR Saari Sari Cafe Restaurant, overlooking the beautiful bay view of MAKASSAR STRAIT offers an à la carte menu with both international favourites, Chinese and Indonesian specialties. Open every from 10:30 - 12:30

Semarang lounge
Our small but elegant and informal lobby area, the right place to relax and order your favourite drink.

Room Service
Open 24 hours

Golden Discotheque
The most exclusive and exotic discotheque in East Indonesia.

Banquet
From a 1,000 persons capacity GOLDEN MARRANI Banquet Hall and PAKARENA Room to a Conference for 15 people, our Banquet Staff can arrange a function to suit the most demanding guest. A wide range of audio-visual equipment is available.



**MAKASSAR
GOEDEN HOTEL**



22208
Passport



JALAN PASAR KAWAN 30, LUANG PANGANG - INDONESIA
PHONE (0411) 2228-2229, 2214-2224, 2272-8288
P.O. BOX 216, CABLE - MAKASSAR, TELEFAX - 1126 MGSUP 14

Dear Guest,

A very warm welcome to the MAKASSAR GOLDEN HOTEL. It is our pleasure to inform that you will find in our hotel the best service, friendliness, and service, to make your stay pleasant. We are fully available to assist you in any way possible as far as facilities to contact us or any member of the Management. If we can be of help. Thank you for staying with MAKASSAR GOLDEN HOTEL.

SEKELUASNYA DI MAKASSAR GOLDEN HOTEL.

Adalah tujukan utama kami untuk selalu berusaha meningkatkan standar pelayanan kepada para tamu. Kami senantiasa berusaha memberikan pelayanan yang terbaik kepada para tamu di MAKASSAR GOLDEN HOTEL.

Bila ada hal-hal lain yang diperlukan, Anda dapat menghubungi kami atau salah satu Manajer kami yang dengan senang hati akan membantunya Anda.

Terima kasih atas keramahtamahan yang diberikan kepada MAKASSAR GOLDEN HOTEL.

THE MANAGEMENT

Room No. : 110000 110500P
Room Number : # 2-11
Room Name :
Room Rate :
Arrival Date : 27/07
Departure Date : 27/07

GENERAL INFORMATION

**HOTEL PASSPORT
PACIFIC HOTEL**

Please carry your hotel passport at all times for easy identification at the hotel's facilities.

Untuk mempermudah Anda sendiri, bewailah setiap saat Passport Hotel ini.

**ROOM KEYS
JUNCI KAKAR**

For your own safety, kindly deposit your room key at the Front Desk upon leaving the hotel premises.

Untuk keamanan, harap depositkan kunci kamar Anda kepada bagian Resepsionis pada Front Desk bila Anda meninggalkan hotel.

**SAFE DEPOSIT BOXES
KOTAK PENYIMPANAN BARANG BERHAJAT**

Are available at the Front Counter, free of charge. Hotel is not responsible for any money or valuables left in the room.

Tersedia di Kantor Resepsionis dengan bebas biaya. Hotel tidak bertanggung jawab atas uang dan barang berharga yang tertinggal di dalam kamar.

Standard Tanya Tanya
CHECK OUT TIME 01:00 a.m.
All rates are subject to 21 % Service Charge & Gov. Tax

図8 ホテルのパスポート (上:表, 下:裏)



図9 ロサリービーチの日没
(世界3大日没光景の1つとか)

無事に予定通り学術交流会が催された次第であるが、その内容など別報の通りである。

午後は自由行動となっていて私達数名は近くの島へ定期船で見学に出かけたが、遊泳場所と禁止区域との区別を明瞭にし、環境保護に気配りがなされているのに感心させられた。

帰ってから Hotel のロビーで休んでいる時、何となくザワザワとした気配に階段を見ると婚礼を行うカップルが降りてくる処、許しを得てのスナップ(図10)でイ国での婚礼衣装、美容師、介添の少女などの様子が伺われる。



図10 インドネシアにおける婚礼衣装

翌29日はいよいよスラウェジ島とも別れである。空港へ赴く途中、市内の一角で公立病院の一つを訪問する機会を得た。玄関口の案内板であるが至って簡単なものである。(図11) 同じく図12は廊下に展示してある業務案内で、言葉よりも絵で分かるような工夫がさ



図11 簡単な病院の案内板(産婦人科と小児科)



図12 絵を中心とした病院の業務案内
(病院廊下にて)



図13 裏手から見た病院の全景

れている。又図13は裏手の方から眺めた全景で勿論平家木造建築である。図14—(1), (2)は病室内の風景で、入院の状況、見舞客など日本の同種病院と似たりよったりであるが、日本のような保険制度はなく自由診療が主体のようで、可成り高額な費用となるような説明であった。従って利用者も割合と少なめということであったが、受診制度上の問題以外に近代医療そのものに対する認識の有無にも施

設利用を妨げる原因があるように見受けられた。



図14-1) 病室風景



図14-2) 病室風景

ジャワ島（ジャクジャカルタ）での印象

昭和63年7月29日午後2時、私達一行はウジュン・パンダン空港を離陸、ガルーダ航空25便により最終訪問予定地であるジョクジャカルタ（以下ジョクジャと略称する）へ向かった。予定では午後4時にジャワ島のソロ空港着となっている。

先の報告で少し触れたが、日本の海外技術援助額の最高をインドネシア国が占めて居り、中でも最も開発が進んで居るのはジャワ島とのことである。図2に示した通り、同国はマレーシア、フィリピンなどと国境を接している。

私達がソロ空港から迎えのマイクロバスでジョクジャへ向い約2時間、宿舎にあてられている Mutiara Hotel へ着いたのは可成り暗くなりかかった時刻であった。乗物疲れの身体をロビーの椅子に托し休息している時に、

ピアノ伴奏と共に覚えのある歌声が響いて来た。これは「恋人よ」、続いて「スバル」。図15を御覧下さい。生演奏の女声ソプラノに元気回復の一行はホテルの好意を胸に、それぞれの部屋へ散って行ったのである。



図15 女声ソプラノ生演奏
(髭の横顔はピアノ伴奏者)

ジョクジャはインドネシアの京都と呼ばれているとか、事実京都市と姉妹都市縁組を結んでいると聞いたが、ジャワ文化発祥の地として知られ、7～9世紀には仏教文化が見事な華を咲かせ、続いてヒンズー教文化が隆盛を極め、それらの文化的遺産としてポロブドール寺院を初めとして多数の寺院が近くに散在しており、これらを観光巡路に入れると、それだけで2～3日を予定しなければならぬとされる。図16-1)、2)、3)は数例を挙げ



図16-1) ジョクジャの寺院(1)

たに過ぎない。



図16—(2) ジョクジャの寺院(2)



図16—(3) ジョクジャの寺院(3)

また学園都市としても知られ中でもガジャ・マダ大学 Universitas Gajah Mada は国立大学の中でも優秀な学生が集まることで有名、日、米、濠などからの留学生も多く国際的雰囲気も漂うとされている。

ジョクジャの正式名称は「ジョクジャカルタ特別地区」と呼ばれ、インドネシア最後のサルタン（地方の王様）である「ハメンク・ブオノ9世」が知事として此の地区を治めており、地区の人々の尊敬の的となっているとのことで、明朝はその王宮を見学する予定である。

さて7月30日は快晴であった。宿舎ムチアラ Hotel を左折南下すると王宮広場に出るが、此処でマイクロバスを降り徒歩で進むと

守護神が左右一対となって入口に置かれ王宮の安全を守っているというわけである。(図17)



図17 王宮入口の守護神
(入口の左右に置かれている)

王宮内の観光巡路は清潔に保持され清掃も行き届いていた。図18の「接客の間」は靴を脱いで入ることが義務付けられている。王宮そのものは1756年に建築された建物であり、当時のジャワ建築の粋を集めていると言われる。部屋は数多く配置され、歴代のサルタンの肖像などの陳列もあり、クリスと呼ばれるジャワ独特の短刀や衣装、乗り物、時計、家具調度品などの展示室もある。一室ではジャワ伝統の民族衣装を身につけた老人たちが目に着いたが、彼等は此の王宮を警護する「武士」たちだということで、腰にはクリスを帯



図18 王宮の接客の間

びていたが、無給で王宮を保護管理しているとのこと、中には独学で日本語を習得した人も居るとか。

私達は王宮を一巡してパティック工房へ向かったが、途中で影絵芝居を見る機会に恵まれた。(図19)

影絵芝居がインドネシア伝統芸能の一例とすればパティックはインドネシアの伝統芸術の一例として挙げることができよう。

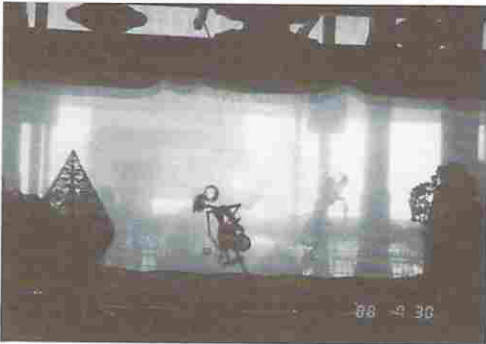


図19 インドネシア伝統芸能の「影絵芝居」の一場面

ジャワ更紗の名で古くから知られているように、織物に見られるデザインを初めとし染色など、技術面においてもその評価は高く、私達が工房を見学している現場で取り扱っている織物や染物についても、「これは日本の某市(織物などで有名な都市)から依頼のものです」と説明をうけ、日本からの注文も相当数に及んでいることを伺わせた。

私達は前記2、3の有名な工房などに案内され、また2、3の有名寺院に参詣し、インドネシア文化・芸術の一端に触れたわけであるが、昼食時に話題となった舞踊劇についても一言触れたいと思う。

前報のバリ島についての報告中にバリダンスの2、3を紹介したが、ジョクジャには更に壮大な舞踊劇が6~10月の満月の夜を中心に連続4日間に亘り繰り広げられ、世界的にも有名な「ラーマーヤナ舞踊」と呼ばれるものであるとの話。

これは宿舎に近いブランバナン寺院のすぐ傍にある建物の屋上を舞台に上記のように4

日間に亘って行われるが、本日は第3日目にあたり4日間の連続劇中でも一番の見どころに当たるということで、私達一行は此のハプニングとも言うべき思わぬ提案に全員異議なく大喜びで今夕の観劇を申し込んだ次第であった。

図20はその際の購入チケットで、裏側には当日分の簡単な解説も印刷されていることが分ると思う。料金は一人分8,000ルピア(日本円にして約800円に相当)であった。図21-(1),(2)は劇中のスナップで広大な舞台に100人を超す踊り手一大人も子供も出演する一が所狭しと活躍する情景はカラフルな衣装などと合わせ異国情緒を十二分に堪能させるものであった。



図21-(1) ラーマーヤナ舞踊劇中の一場面(1)



図21-(2) ラーマーヤナ舞踊劇中の一場面(2)

このようにしてインドネシアにおける最後の夜は更けていったのである。

翌31日は午前中自由行動。午後4時10分、ガルーダ航空第634便でジョクジャに別れを

**the Calendar of Events
1988 - 1989**

MAY		MAY	
27 th May	19 th May	20 th May	21 th May
28 th May	20 th May	21 th May	22 th May
29 th May	21 th May	22 th May	
30 th May	22 th May		
JUNE		JUNE	
24 th June	16 th June	17 th June	18 th June
25 th June	17 th June	18 th June	19 th June
26 th June	18 th June		
27 th June	19 th June		
JULY		JULY	
22 th July	14 th July	15 th July	16 th July
23 th July	15 th July	16 th July	17 th July
24 th July	16 th July		
25 th July	17 th July		
AUGUST		AUGUST	
19 th August	11 th August	12 th August	13 th August
20 th August	12 th August	13 th August	14 th August
21 th August	13 th August		
22 th August	14 th August		
SEPTEMBER		SEPTEMBER	
23 th September	08 th September	09 th September	10 th September
24 th September	09 th September	10 th September	11 th September
25 th September	10 th September		
26 th September	11 th September		
OCTOBER		OCTOBER	
22 th October	13 th October	14 th October	15 th October
23 th October	14 th October	15 th October	16 th October
24 th October	15 th October		
25 th October	16 th October		

**RORO JONGGRANG
FOUNDATION**
YOGYAKARTA PRESENTED



**Ballet Festival
at the Open Theatre
PRAMBANAN
Yogyakarta
INDONESIA 30 JUL 1989**

Rp. 8000

ADMISSION STUB	CLASS : VIP
	NUMBER : F 11
	DOOR :



Third Episode:

B. The invasion of Alengka and the fall of a Patriotic Hero.

Rama, Leamana, Sugriwa and his army wait anxiously for the return of Hanuman from Alengka. Soon Hanuman comes, bringing happy news for everybody. Hanuman then delivers Sinta's hairpin to Rama. On seeing this Rama is drowned in misery but nevertheless he thanks Hanuman for the successful task he'd done. Next Rama sends Hangukade to Alengka to warn Rahwana to surrender. Meanwhile Rama shoots a magic arrow at the water separating the two countries, causes it to dry out instantly. This whole activity is presented in a picturesque dance describing the panic stricken fishes and their cooperation in the end, so that Rama's troop may cross over.

In Alengka Rahwana is assembling his ministers and warriors to council about the coming war, when Hangukade arrives. Hangukade delivers Rama's message. It infuriates Rahwana to such extent that he orders Hangukade to be killed but Kumbakarna stops him. This inflames Rahwana's anger even more, yet Kumbakarna once more reminds him that Hangukade is only a messenger. Rahwana cannot resist his passion, and turns out Kumbakarna. Then he orders Indrapit, Prahasta, Sarpakanaka and all the giant army to go to battle and defeat Rama. The battle is cruel and terrible. Prahasta, the prime minister of Rahwana is killed by Hanila (there is an earlier episode concerning Sugriwa-Suba's mother being cursed into stone because of her unfaithfulness and in this scene, Hanila used this stone to smash dead Prahasta. This redeems the infidel woman who turns back to her shape, the Goddess. Handiraji Indrajit dies on Leamana's arrow. Hanuman strikes dead Rahwana's sister Sarpakanaka. But above all these, the most tragic figure is the patriotic hero Kumbakarna who suffers pulled limb mangled and dishevelled prince.



図20 野外劇場の入場券 (上:表, 2年間の上演日程が書いてある。
下:裏, 当日上演の簡単なストーリーが書いてある。)

告げ、デンパサルに向かい、午後9時の予定は約1時間遅れたが、デンパサル空港を出発、ガルーダ航空第872便で8月1日午前無事に成田空港着となった。

おわりに

私達豊田パーティはインドネシア国スラウェジ島のハサヌディン大学医学部との学術交流会を機に同国を訪れる機会を得た。

同国は1万3千余の島じまからなる大国であり、私達が訪問し得た島は僅かにジャワ島、バリ島、スラウェジ島の三島に過ぎず、これでもって同国を語ることはおこがましい限りと言わなければならない。ただ同国の文化的

遺産や芸術に対し深い敬意を表すると共に同国から受けている各種資源の提供に心から感謝し、今後共相携え、相協力して世界の平和・発展のために尽力すべきではないか、これが私の感想の一端である。

なお、この管見記を記すに当り「有情余情—アジアの国々」、*「ガルーダ・インドネシア航空機内誌 July. Sept. 1988 Vol. 14」*、「バリとインドネシア」の三誌と本会誌第19巻などを参考とさせて頂いたことを附記し、併せて貴重な機会を与えて頂いた豊田会長、医療法人社団清和会理事長土用下きん子の両氏に深甚の謝意を表する次第である。